

第3学年 道徳科学習指導案

稲城市立城山小学校

3年2組 31名

授業者 沖田 智子

- 1 主題名 自分のいいところ A〔個性の伸長〕
- 2 教材名 「ええところ」 (くすのきしげのり作 ふるしょうようこ絵 学研プラス)
- 3 主題設定の理由 (授業者の指導観)

(1) ねらいとする道徳的価値について (価値観)

個性とは、個人特有の特徴や性格であると言われている。個性の伸長は、自分のよさを生かし、自分らしさを発揮しながら調和のとれた自己を形成していくことである。自分の特徴に気付くということは、自分の長所だけでなく短所にも気付くことである。その上で、長所をさらに伸ばしていき、自分の個性に気付くようにすることが大切である。そのためには、児童が視野を広げ、自分の特徴に気が付くようにしたり、他者との交流の中で互いを認め合い、場の設定を工夫したりして、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切だと考える。

(2) 児童の実態 (児童観)

本学級の児童は、「今日のキラリ」として、友達のよいところを一つ見つけて帰りの会で発表する取り組みを行っている。そのため、友達の良いところについて話すことができる児童は多いが、自分のよさについては気が付かなかったり、気が付いていてもそれを素直に認められず、自己肯定感が低いのか、否定的な言葉を口にしたりする児童がいる。

本学習を通して、自分を含め、誰にでもよさがあることに気が付き、そのよさを伸ばしていこうとする気持ちを育てていきたい。

(3) 教材について (教材観)

本教材は、自分には一つもいいところがないと悩むあいちゃんが、友達のとものに自分のいいところを教えてもらう。嬉しくなったあいちゃんだが、あることがきっかけで、いいところなくなり、落ち込む。そんなあいちゃんに、とものは、一番いいところを伝えてくれた。

本教材を通して、児童一人一人に改めて自分自身を振り返らせたい。そして、今まで自分にはいいところがないと感じていた児童も、あいちゃんのように、小さなきっかけを通して、自分の「いいところ」を見つけ、そのよさを大事にしていこうとすることが大切だと気付かせたい。

4 研究主題に迫るための手立て

(1) 教材提示の工夫

絵本の挿絵を拡大し、大型の紙芝居を用いて教材提示をすることで、児童が教材の世界に入り込めるようにする。感情を込めて範読することで、内容が想像しやすいようにする。

(2) 終末の工夫

教師が、児童一人一人のいいところを書いた手紙を渡すことで、自分のいいところを知り、伸ばしていこうとする気持ちを高めることにつなげていけるようにする。

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

自分のよさについて考え行動するあいちゃんの気持ちを共感的に考えることを通して、自分のよさを知り、そのよさを大事に伸ばしていこうとする心情を育てる。

(2) 学習指導過程

	学習活動 主な発問 (○) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (●) 評価 (☆) 研究主題に迫るための手立て (数字)
導入	1 友達のいいところについて考える。 ○ あなたのお友達のいいところは、どんなところですか。	●コの字型座席 ●友達のいいところを考えさせ、そこから自分のいいところを考えることにつなげていく。
展開	2 「ええところ」を視聴して話し合う。 ○ ともちゃんに、「明日までに考えてくる。」と言われたとき、あいちゃんはどうなことを思ったんだろう。 ・ともちゃん、「そんなことないよ」って言ったのに。 ・やっぱり、私にはええところがないんだ。 ○うつむいたら、涙がぼたぼたと床に落ちたとき、あいちゃんはどんな気持ちだったんだろう。 ・せっかく見つかったのに。 ・また一つもええところがない私になってしまった。 ◎「みんなにやさしいのが、あいちゃんのいちばんええところやおもうわ。」と言われて、あいちゃんはどんな気持ちになっただろう。 ・ともちゃん、ありがとう。 ・私に、一番ええところがあったんだ。 ・他にもええところがあって嬉しい。 3 自分を振り返る。 ○自分の「ええところ」を自分で探して書いてみましょう。	教材は配布せず、紙芝居形式で読み聞かせを行う。(1) ●大阪弁で書かれていることを伝える。 ●あいちゃんの気持ちを考えながら視聴するよう指示する。 ●児童の多様な受け止め方を分類整理して板書に位置付ける。 ●発表させないことを伝える。 ☆自分のいいところを見つけようとしている。(ワークシート・観察)
終末	4 教師から手紙を渡す。	手紙から、自分のいいところを知ることにつなげていく。(2) ●手紙は、友達と見せ合うのではないことを伝える。